# 平成30年度第1回白石市まち・ひと・しごと創生戦略会議

### 開催概要

1 日 時 平成30年8月29日(水) 午後2時~午後4時

2 場 所 白石市役所 4階 大会議室

## 委員

番号 区 分 団体等名称 役 職 所藤 昭   1 本業連絡会 の名商工会議所 会 頭						
2 産業界 白石蔵王地区 企業連絡会 自石市 産業振興会議 管域大学 自石市立 小中学校校長会 小中学校校長会 事 東北財務局 宮城県大河原 地方振興事務所 大河原公共職業 安定所白石出展所 10 校長 高極 長 東北財務局 宮城県大河原 地方振興事務所 大河原公共職業 安定所白石出展所 日石支店 三浦 敏朗 地方振興部長 所長 第 和彦   10 金融機関 11 七十七銀行 自石支店 地方創生支援業務 担当部長 日 3 京市長 第 地方創生支援業務 担当部長 日 14 世方創生支援業務 担当部長 日 15 菅野 勉 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	番号	区分	団体等名称	役 職	氏 名	出欠
企業連絡会 ームズ   日野 明彦   自石市 産業振興会議 代表 佐藤 全 欠席   「宮城尺学 地域連携セケー長 高樫 千之   「宮城県 自石高等学校 校長 脇坂 晴久   日石高等学校 自石市立 小中学校校長会 会長 永山 晋   下び機関 地方振興事務所 地方振興部長 高橋 悟   「宮城県大河原 地方振興事務所 地方振興部長 高橋 悟   「大河原公共職業 安定所自石出張所 所長 齋和彦   10 金融機関 七十七銀行 自石支店 支店長 菊地 勝己   11 労働団体 連合自石地区会議 事務局長 山内 洋介   12 労働団体 連合自石地区会議 事務局長 山内 洋介   13 報道機関 イ津新関店 (河北新報販売所) 谷津 智里   14 学識 自石市畿会 議員 松野 久郎   15 学識 自石市観会 議員 松野 久郎   16 日本市議会 会長 佐藤 満一   17 日本市観所 日本地区事業本部 地区事業本部長 佐藤 誠   19 自石市認定 農業者連絡協議会 (有)竹鶏77-A常務 志村 竜生 久席	1		白石商工会議所	会 頭	齋藤 昭	
産業界 企業連絡会 ームズ   13 白石市	2		白石蔵王地区	NEC プラットフォ	日野 田彦	
2		産業界	企業連絡会	ームズ	口到 切尽	
4 宮城大学 地域連携セクー長 富樫 千之   5 教育機関 宮城県 白石高等学校 校長 脇坂 晴久   6 市立 小中学校校長会 会長 永山 晋   7 東北財務局 総務課長 三浦 敏朗   8 行政機関 地方振興事務所 地方振興部長 高橋 悟   9 地方振興事務所 地方振興部長 高橋 悟   10 企融機関 七十七銀行 白石支店 支店長 菊地 勝己   11 労働団体 連合白石地区会議 事務局長 山内 洋介   13 アナウンサー 船越 理香 欠席   13 報道機関 アナウンサー 船越 理香 欠席   14 谷津新開店 (河北新報販売所) 谷津新開店 (河北新報販売所) 谷津 智里   15 会議 自石市総公会会長長佐藤善一 自石市総公会会長医佐藤 善一 自石青年会議所理事長 自石青年会議所理事長 自石市認定 農業が同組合地区事業本部長佐藤 誠 佐藤 誠   19 地区事業本部長 地区事業本部長 佐藤 誠   19	3		白石市	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	<b>佐藤</b> 仝	欠 度
5 教育機関 宮城県白石高等学校 日本市立 小中学校校長会 中北財務局 部域県大河原地方振興事務所 大河原公共職業安定所白石出張所 中方振興事務所 大河原公共職業安定所白石出張所 中方振興事務所 日本市工 中方銀典事務所 日本市工 中方銀典事務所 日本市工 中方銀典事務所 日本市工 中方銀典事務所 日本市工 中方銀生支援業務 担当部長 中方銀生 大宮 中方銀生 中方銀生 中方銀生 中方銀生 中方銀生 中方銀生 中方銀生 中方銀生			産業振興会議	1	工旅 土	JC/m
5 教育機関 白石高等学校 校長 脇坂 晴久   6 白石市立 小中学校校長会 会長 永山 晋   7 東北財務局 宮城県大河原 地方振興事務所 地方振興部長 高橋 悟   9 地方振興部長 高橋 悟   10 金融機関 七十七銀行 白石支店 支店長 菊地 勝己   11 地方創生支援業務 担当部長 首野 勉   12 労働団体 連合白石地区会議 アナウンサー 事務局長 担当部長 山内 洋介 船越 理香 欠席   13 報道機関 公津新開店 (河北新報販売所) 谷津新開店 (河北新報販売所) 谷津 智里   15 学職 経験者等 白石市観光協会 白石市観光協会 白石市観光協会 白石青年会議所 会長 佐藤 適 地区事業本部 佐藤 誠	4		宮城大学	地域連携センター長	富樫 千之	
数有機関   白石高等学校   白石市立   小中学校校長会   泉北財務局   窓務課長   三浦 敏朗   宮城県大河原   地方振興事務所   地方振興事務所   大河原公共職業   安定所白石出張所   大河原公共職業   大河原公共職業   大河原公共職業   安定所白石出張所   大河原公共職業   大河原公共職業   大河原公共職業   大河原公共職業   大市長   大市長   東省   大河原公共職業   大河原公共職業   大河原公共職業   大市長   大市長   大市長   大郎   大市日本   大郎   大市田・   大郎   大郎   大郎   大郎   大郎   大郎   大郎   大		教育機関	宮城県	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	版 坛 · 瞎 九	
6 小中学校校長会 会長 永山 晋   7 東北財務局 総務課長 三浦 敏朗   8 万政機関 地方振興事長 高橋 悟   9 地方振興事務所 大河原公共職業安定所自石出張所 所長 齋和彦   10 金融機関 七十七銀行自石支店 東北財務局 所長 常地 勝己   11 地方側生支援業務担当部長 世方創生支援業務担当部長 山内洋介 所能   12 労働団体連合自石地区会議事務局長 山内洋介 所能 公津新聞店(河北新報販売所) 公津新聞店(河北新報販売所) 公津 智里   14 学識自石市議会 議員 松野 久郎 白石市観光協会会長 佐藤善一自石市観光協会会長 佐藤善一自石青年会議所理事長 風間信静 白石市区事業本部長佐藤 誠地区事業本部長佐藤 誠地区事業本部長店村 竜生 欠席   19 中の子に山南農業協同組合自石地区事業本部長を藤 計画工作記定農業者連絡協議会(有)竹鶏ファーム常務 志村 竜生 欠席			白石高等学校	1 1	加加列	
7 東北財務局 総務課長 三浦 敏朗   8 宮城県大河原地方振興事務所 地方振興部長 高橋 悟   9 七月振興事務所 所長 齋和彦   10 金融機関 七十七銀行自石出張所 支店長 菊地 勝己   11 地方創生支援業務担当部長 菅野 勉担当部長 世方創生支援業務担当部長   12 労働団体 連合自石地区会議 事務局長 山内洋介 インウンサー 船越理香 欠席   13 マナウンサー 船越理香 欠席   14 谷津新聞店(河北新報販売所) 谷津 智里   15 今議 自石市議会 議員 松野久郎自石市議会 会長 佐藤 善自石市観光協会会長 佐藤 善自石市観光協会会長 佐藤 善自石市経の事業本部長自石市認定農業協同組合自石地区事業本部長度新加速を実施同組合自石地区事業本部長度素別 佐藤 誠 佐藤 誠   19 19	6		白石市立	会 長	永山、平	
8 行政機関 宮城県大河原地方振興事務所大河原公共職業安定所自石出張所大河原公共職業安定所自石出張所 所長 齋和彦   10 金融機関 七十七銀行自石支店 支店長 菊地 勝己   11 地方創生支援業務担当部長 世方創生支援業務担当部長 世方創生支援業務担当部長 世方創生支援業務 担当部長 中子ウンサー 船越 理香 欠席   13 アナウンサー 船越 理香 欠席   14 報道機関 谷津新聞店(河北新報販売所) 日石市議会 議員 松野 久郎 白石市観光協会 会長 佐藤 善一白石市観光協会 会長 佐藤 善一白石青年会議所 理事長 風間信静 みやぎ仙南農業協同組合 地区事業本部長 佐藤 誠 地区事業本部長 世子の元本務 志村 竜生 欠席   19	U		小中学校校長会		л н	
8 行政機関 地方振興事務所 地方振興部長 髙橋 悟   9 大河原公共職業 安定所白石出張所 所 長 齋 和彦   10 金融機関 七十七銀行白石支店 支店長 菊地 勝己   11 地方創生支援業務担当部長 世方創生支援業務担当部長 山内 洋介 外部   12 労働団体 連合白石地区会議事務局長 山内 洋介 外部 理香 欠席   13 報道機関 谷津新聞店(河北新報販売所) 谷津新聞店(河北新報販売所) 谷津 智里   15 学識白石市議会 議員 松野 久郎 白石市議会 長 佐藤 善一白石青年会議所 理事長 風間信静 分やぎ仙南農業協同組合 白石地区事業本部長 佐藤 誠 地区事業本部長 佐藤 誠   18 白石市認定農業者連絡協議会 (有)竹鶏ファーム常務 志村 竜生 欠席	7		東北財務局	総務課長	三浦 敏朗	
7 改機関 地方振興事務所 大河原公共職業 安定所白石出張所 所長 齋和彦   10 金融機関 七十七銀行 白石支店 支店長 菊地 勝己   11 地方創生支援業務 担当部長 菅野 勉   12 労働団体 連合白石地区会議 事務局長 山内 洋介 船越 理香 欠席   13 アナウンサー 船越 理香 欠席   14 谷津新聞店 (河北新報販売所) 谷津 智里   15 学識 白石市議会 議員 松野 久郎 白石市観光協会 会長 佐藤 善一 白石青年会議所   16 経験者等 白石市会議所 理事長 風間 信静   17 みやぎ仙南 農業協同組合 白石地区事業本部 地区事業本部長 佐藤 誠   19 白石市認定 農業者連絡協議会 (有)竹鶏ファーム常務 志村 竜生 欠席	8		宮城県大河原		直橋 恆	
9 安定所自石出張所 所長 齋和彦   10 金融機関 七十七銀行 自石支店 支店長 菊地 勝己   11 仙南信用金庫 地方創生支援業務 担当部長 菅野 勉   12 労働団体 連合白石地区会議 事務局長 山内 洋介   13 アナウンサー 船越 理香 欠席   4 谷津新聞店 (河北新報販売所) 谷津 智里   15 今識 白石市議会 議員 松野 久郎   16 経験者等 白石市観光協会 会長 佐藤 善一   17 日石青年会議所 理事長 風間 信静   3 みやぎ仙南 農業協同組合 白石地区事業本部 地区事業本部長 佐藤 誠   4 日石市認定 農業者連絡協議会 (有)竹鶏77-A常務 志村 竜生 欠席	0	行政機関	地方振興事務所	地力派與印文	161 (10)	
安定所自石出張所	g		大河原公共職業	所 長	齊 和 彦	
10 金融機関 白石支店 支店長 菊地 勝己   11 山南信用金庫 地方創生支援業務 担当部長 菅野 勉   12 労働団体 連合白石地区会議 事務局長 山内 洋介   13 アナウンサー 船越 理香 欠席   14 谷津新聞店 (河北新報販売所) 谷津 智里   15 学職 経験者等 白石市議会 議員 松野 久郎   16 全長 佐藤 善一   17 白石青年会議所 理事長 風間 信静   18 みやぎ仙南 農業協同組合 白石地区事業本部 地区事業本部長 佐藤 誠   19 古石市認定 農業者連絡協議会 (有)竹鶏ファーム常務 志村 竜生 欠席	Э		安定所白石出張所		<i>兩 141</i> 多	
11 金融機関 地方創生支援業務担当部長 菅野 勉   12 労働団体 連合白石地区会議 事務局長 山内 洋介   13 双ナウンサー 船越 理香 欠席   14 谷津新聞店(河北新報販売所) 谷津 智里   15 学識 白石市議会 議 員 松野 久郎   16 経験者等 白石市観光協会 会 長 佐藤 善ー   17 白石青年会議所 理事長 風間 信静   18 カやぎ仙南農業協同組合 白石市認定農業本部長 佐藤 誠   19 白石市認定農業者連絡協議会 (有)竹鶏ファーム常務 志村 竜生 欠席	10	- 金融機関	七十七銀行	支店長	菊地 勝己	
11 山南信用金庫 地方創生支援業務 担当部長 菅野 勉   12 労働団体 連合白石地区会議 事務局長 山内 洋介   13 双ナウンサー 船越 理香 欠席   14 谷津新聞店 (河北新報販売所) 谷津 智里   15 学識 白石市議会 益 員 松野 久郎   16 在藤 善一   17 白石青年会議所 理事長 風間 信静   18 みやぎ仙南 農業協同組合 白石地区事業本部 地区事業本部長 佐藤 誠   19 白石市認定 農業者連絡協議会 (有)竹鶏ファーム常務 志村 竜生 欠席			白石支店			
担当部長   山内 洋介   13   アナウンサー   船越 理香   欠席   14   智里   日石市議会   日石市議会   日石市議会   日石市議会   日石市観光協会   日石市観光協会   日石市観光協会   日石市観光協会   日石市観光協会   日石市観光協会   日石市電光協会   日石市区事業本部   世区事業本部   世区事業本語   世区事業本語   世区事業本語   世区事業本語   世区書述書書書書書書書書書書書書書書書書書書書書書書書書書書書書書書書書書書書	11		仙南信用金庫	地方創生支援業務	菅野 勍	
13 報道機関 アナウンサー 船越 理香 欠席   14 裕道機関 谷津新聞店 (河北新報販売所) 谷津 智里   15 学識 (百石市議会 議員 松野 久郎   16 白石市観光協会 会長 佐藤 善一   17 白石青年会議所 理事長 風間 信静   18 みやぎ仙南 農業協同組合 白石地区事業本部 地区事業本部長 佐藤 誠   19 白石市認定 農業者連絡協議会 (有)竹鶏ファーム常務 志村 竜生 欠席				担当部長	17, /2	
14 報道機関 谷津新聞店 (河北新報販売所) 谷津 智里   15 学識 (百石市議会) 白石市議会 議員 松野 久郎   16 経験者等 白石市観光協会 会長 佐藤 善一   17 白石青年会議所 理事長 風間 信静   みやぎ仙南 農業協同組合 白石地区事業本部 地区事業本部長 佐藤 誠   自石市認定 農業者連絡協議会 (有)竹鶏ファーム常務 志村 竜生 欠席	12	労働団体	連合白石地区会議	事務局長	山内 洋介	
14 (河北新報販売所) 谷津 智里   15 学識 白石市議会 議 員 松野 久郎   16 経験者等 白石市観光協会 会 長 佐藤 善一   17 白石青年会議所 理事長 風間 信静   18 みやぎ仙南 農業協同組合 白石地区事業本部 地区事業本部長 佐藤 誠   19 白石市認定 農業者連絡協議会 (有)竹鶏ファーム常務 志村 竜生 欠席	13		アナウンサー		船越 理香	欠席
15 学識 白石市議会 議員 松野 久郎   16 経験者等 白石市観光協会 会長 佐藤 善一   17 白石青年会議所 理事長 風間 信静   みやぎ仙南 農業協同組合 白石地区事業本部 地区事業本部長 佐藤 誠   自石市認定 農業者連絡協議会 (有)竹鶏ファーム常務 志村 竜生 欠席	14	報道機関				
16 経験者等 白石市観光協会 会長 佐藤 善一   17 白石青年会議所 理事長 風間 信静   3 みやぎ仙南 白石地区事業本部 佐藤 誠   2 自石市認定 白石市認定 (有)竹鶏ファーム常務 志村 竜生 欠席			(河北新報販売所)		7 11 11 11	
17 白石青年会議所 理事長 風間 信静   3 みやぎ仙南 農業協同組合 白石地区事業本部 地区事業本部長 佐藤 誠   19 自石市認定 農業者連絡協議会 (有)竹鶏ファーム常務 志村 竜生 欠席	15	学識	白石市議会	議員	松野 久郎	
18 みやぎ仙南 農業協同組合 白石地区事業本部 地区事業本部長 佐藤 誠   19 白石市認定 農業者連絡協議会 (有)竹鶏ファーム常務 志村 竜生 欠席	16	経験者等	白石市観光協会	会 長	佐藤 善一	
18 農業協同組合 地区事業本部長 佐藤 誠   19 白石市認定 農業者連絡協議会 (有)竹鶏ファーム常務 志村 竜生 欠席	17		白石青年会議所	理事長	風間 信静	
19 農業協同組合 地区事業本部長 白石市認定 農業者連絡協議会 (有)竹鶏ファーム常務 志村 竜生 欠席	18		みやぎ仙南	白石地区事業本部	佐藤 誠	
19 農業者連絡協議会 (有)竹鶏ファーム常務 志村 竜生 欠席			農業協同組合	地区事業本部長	1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-	
農業者連絡協議会	19		白石市認定	(有)竹鶏ファーム常務	志村 竜生	欠 席
20 白石刈田地区 会 長 佐久間一志			農業者連絡協議会		-0.14	> √ \ /\\  1
	20		白石刈田地区	会 長	佐久間一志	

		父母教師会連合会		
21		子育て支援センター 利用者代表	佐藤智美	
22		プランニング開代 表・アトリエ自遊楽 校主宰	新田新一郎	
	白石市出席者			
		白石市長	山田 裕一	
		白石市副市長	菊地 正昭	
		白石市総務部長	大槻 洋一	
		白石市総務部 地方創生対策室	日下 忠績	
		II.	佐久間恒一	
		II	石川 勝	

配布資料 (以上、事前配布)

#### 【次第】

#### 【委員名簿】

【資料1】白石市総合戦略効果検証資料

【資料2】市民アンケート調査集計結果

【資料3】広報しろいし平成30年9月号に掲載する特集記事の写し

【資料4】農商工連携を核とした賑わい交流拠点について

【資料 5】 地方創生関係交付金事業採択・実施状況について

【参考資料】人口ビジョン及び総合戦略の体系

【参考資料】施策の概要と主な取り組み

【参考資料】昨年の戦略会議で定期・議論された事項の対応等について

- 3 議事概要 ○異動等により変更となった委員に対し、委嘱状の交付を行った。
  - ○前回会長であった竹内会長が退任されたことにより、新たに会長の 選出。会長には富樫委員を選出。
  - 1)「白石市まち・ひと・しごと創生創業戦略」の概要について

#### ○総合戦略概要について

資料に基づき、事務局より人口ビジョン、施策の概要と主な取組について説明を行い、戦略の概要について確認した。

・まち・ひと・しごと創生戦略の期間は5年間で行うということに

なっていますが、資料で示されているように人口減少をこのくらいで抑えようということで、合計特殊出生率の数値やそれぞれ KPIを設定してスタートして今年で4年を迎え、設定当初からのそれぞれの達成率について記載ありますが、どのような状況になっていてそれをどのように評価しているのかについて説明をしていただければと思います。

- →全体的には取り組みは順調に進んでいると思います。しかし、 すぐに効果が出る施策もあれば、出生率等のように長期間で考 えなければならないものもありますので、4年間で全てが完結 するわけではなく、2040年、2060年と長いスパンで、 積み上げないといけない部分もあります。
- ・現在のまち・ひと・しごと創生戦略は31年度までですが、その後も第2期としておそらくあるだろうと示唆されているという情報があったので、おそらく白石市としても計画を策定していくようになると思いますが、当初に設定した指標がこれで合っていたのかどうか、目指す姿に近づくことができるものなのかということについても検証していく必要があるのではないかと思うのでよろしくお願いします。
  - →白石の総合戦略は、総合計画の手段のための位置づけをしておりますが、総合計画は32年度までとなっており総合戦略の方が1年早く終わる状況にあります。その1年間をどうするかという取扱いはあるんですけれども、3年前に設定した目標ははたして適切だったのかというような目標も正直あると思います。しかし、途中で変えるのはなかなか難しいので、そこのところを毎年の検証の中で、指標的にどうなのかというところを検証しながら次の総合戦略には活かした上で、適切な目標設定をしていかなければと思います。

#### ○地方創生市民アンケート調査集計結果について

資料に基づき、事務局より7月1日~7月15日に実施した調査アンケート結果について説明を行った。

・29年度と30年度にアンケートを実施して結果が出ていますが、 比較すると内容にあまり変化がない。地方創生で色々な活動をしているので結果が良くなっていてほしいという希望はあるが30年度の結果を見てもあまり良くなっているようには見えない。ただこれは無作為抽出して行っているアンケートですので、29年度と30年度で回答している人が違うので毎回同じような結果に なる可能性がある。そうするとどこが良くてどこが悪いかというのがなかなか見えないのではないかと思う。見えないということはKPIの数字は確かにいいが、それが実際に市民が本当にいいと思っている数値と乖離があるのではないかと思う。その辺を今後どのようにやっていったらいいかというのが大事だと思う。

- ・このアンケート項目については市でどういう項目にするか決めて いるのか。
  - →アンケートにつきましては、総合戦略を作る時から同様の内容で聞いており、無作為抽出ということで、同じ人が評価しているわけではない。ただ、総合戦略は計画・作成段階からようやく子育て支援施設のオープンや6次産業化加工施設の整備、サンパークの整備が進んでいく等事業実施に移る段階になりつつあります。それで例えば子育て支援項目の育てやすさという項目がございますが、あまり芳しくない数値かもしれません。ただ、来年度調査をすれば、育てやすさの数値については、一定の効果が上がるものと期待をしているところございます。確かに1年1年で見れば微々たるものではございますが、5年間で見れば、数字は変化してくると考えております。
- ・資料の見方として項目毎の変化をみるものと、若い世代の住み続けたいという割合と高齢の方の住み続けたいという割合の違いはなんなのか、その理由をもっと掘り下げて聞き出すというのもつあると思います。
- ・同じアンケートの数字を見てもそれをどう評価するかで違うと思う。私たちがこういう評価をする時にPDCAという手法を使います。それでPDCAのCというのは内部では行わない。外部機関の人が評価する。こういう目標数値をあげて、それに対してアンケートの結果がどうだったかというのは悪いことではないが、少なくとも身内でやってもしょうがないと思う。どうやって外部機関でやっていくかということなって、難しいところはあると思うがCのところはもうちょっと工夫しないとCにならないと思う。
- ・目標1から4まで立てて、今すぐ見えるもの、見えないものそれ ぞれあるが、今おっしゃったようにPDCAが回っているので、 それを回すための資料としてアンケート調査があると思うのでま た立ち戻ってもいいと思う。それを5年間の間でできるのか、5 年後計画を立てたけどダメだったではなくて、見直しを行いなが らちゃんと5年後に向けてやっていかなければならないのではな

いか。毎年アンケートをやっているということは徐々に良くなっているというのを把握するだけではなく、それを用いてもっと力を入れていかなければというのに活用したらいいのではないか。それと、白石での働きやすさというのも去年とさほど変わっていない。しかし働くというのは仙台でもどこでもいいと思う。でも住むのは白石というふうにある程度方向を持っていくというのもいいのではないかと思う。

- ・有効求人倍率が1.06というのがどうというわけではなく、問題は白石で職を求めるのか仙台で職を求めるのか。働く場所は仙台でもいいが居住するところは白石市にというほうが明確な目標になると思う。
- ・アンケートに関連してなのですが、毎年この会議で前年と今年を比較したものが配られていますが、せっかくずっと取っているので前年だけ比較だけではなく、集計している期間を通しての変化が分かるようにしないと活かしきれてないのではないかと思います。
- →集計結果の分析については検討していきたいと思います。
- ・アンケートについては、設問の数を増やすというのは難しいで しょうし、基本的な項目は変えないでアンケートをすることで比 較ができるのだと思いますが、例えば去年若しくは3年前と比べ て住みやすさ・暮らしやすさはどうなりましたか、その理由はな んですかというのを書いてもらえれば分析の仕方も変わってくる のではないか。
- ・アンケートというのはあまり煩雑にすると答えたくないという 人も出てくると思うので、そういう加減は難しいと思いますがぜ ひ検討いただければと思います。

- 2) 平成29年度白石市地方創生事業の効果検証について
  - ○基本目標1 産業の活力を生む新しい価値を創造し続けるまちづく りについて

資料に基づき、事務局より各基本的方向に位置づけられている先行 事業、新規事業、継続事業の各項目について説明及び昨年の戦略会議 で提起・議論された事項の対応等について説明を行った。

- ・有効求人倍率等は比較的良好だという報告は昨年度もあったんですが、企業としては求人倍率にも表れているとおり、採用したいという企業が比較的ある、市民の方からみれば働く場所がない。というところでミスマッチの状態があるという指摘を頂いております。白石市としましては、企業の魅力とか、活き活きと働いている職場があるんだと広く紹介したいということで広報しろいしの「しろいしのはたらき人」というコーナーを作りましてその中で企業の紹介とかイメージアップにつながるような記事を載せまして、努めているところでございます。
- ・最近は仙台に流出するよりも東京圏への流出が多くなっている。 求人の数は減っていないが人がいないということで本来であれば 有効求人倍率は高くて然るべきだと思うが、1.06 という数字は満 足するべき数字ではないと思う。ただ、これは白石市だけの問題 ではなくて固有の仕事を求めている人たちが東京へ流出していく のをどうやって防ぐかが一番肝心であって、流出を防ぐというこ とに一番力点をおかないといけない。
- ・地方創生の成功事例として出てくる岡山県の西粟倉村や島根県の 雲南市では移住者が増えているという事例もあり、これは移住し たいという人の需要を上手く捉えていることだと思うので、その あたりについても研究していただければと思います。 また、アンケートの結果でも住み続けたいという若い人の結果が 低いとでているので、どうしたら住み続けたいと思ってもらえる

たしかに先ほどアンケートをいただいたが、これを更に深く調べていくというのはこれからのことだと思うがそれを分析というか 更に掘り下げていく必要があると思います。

のかということをもう少し調査の段階で方法を検討していくべき

ではないか。

10人、20人ではなく、まずは1人2人が住んで白石を良く思ってその人達が情報発信をしてくれるというのが望まれていることだと思います。

・子どもを持っている親御さんが子どもに対して、「白石のまちはいいぞ」「お父さん、お母さんの仕事はいいぞ」という話しを子ども達にする場や余裕が無いっていうのが正直な話だと思います。 企業の皆さんも採用活動に取り組んでいますがなかなか求人が来 ない。でも実際大事なのは1社1人でも2人でも採用して、入社 5年10年の社員が結婚して、数値だけを言うわけではないが子 どもがどれだけ産まれたか、白石で産み育てているんだというよ うなこともないといけないと思います。戦略会議はあくまで数値 目標とか総合戦略の考え方を知って、私たちがそれぞれの場所に 戻って、今まちがこういう風に進んでいるからこういう考えで行 かなきゃいけないよねということをみんなで発信していかないと いけないと思います。そうしないと実際アンケートにもあるよう に、そんな計画あったのか、というふうになってしまうと思いま す。このままじゃまちが消滅してしまうというマイナスイメージ だけではなく、こじゅうろうキッズランドにしても、市民の声か らすると正直何でお金払って施設利用しなきゃいけないの。とい うのが正直な意見だと思います。でもそれもみんなでそういうふ うにやっていこうよという風な考え方をみんなで発信していかな いと、指摘しあっても、意味が無いとは言わないけれども、意味 のあるものにしていかなければならないと思います。そんなこと 言わないで、みんなでやっていこうよと働きかけて進めていくの が我々の立場ではないのかなと思います。

- ・お父さんお母さんがこのまちに住んで楽しいよっていうことを自 ら発信することを必要なんではないかと思います。やはりお父さ んお母さんがここに住むことについてマイナスなことを日々言う のは子どもに影響を与えてしまうと思います。
- ・年間の就職件数、求人倍率はだんだん下がっています。求人倍率は1倍を超えているが、求人数・求職者数は減ってきている。求職者の方が求人よりも減っているので求人倍率としては1倍を超えているというのが実情です。

- ○基本目標2 市民が主役になって地域をつくり、交流を楽しむまちづくりについて
- ○基本目標3 安心して子どもを産み育て、心やすらかに暮らせるま ちづくりについて
- ○基本目標 4 美しい自然を受け継ぎ、安全で快適に過ごせるまちづくりについて

資料に基づき、事務局より各基本的方向に位置づけられている先行 事業、新規事業、継続事業の各項目について説明を行った。

・先ほど冒頭で市長から、みんなで協力して白石市の活性化をという趣旨のお話がありましたので、一つ皆様にご紹介をしつつご協力をいただきたいことがございましてお時間を頂戴できればと思います。

本校では総合的な学習の時間において、白石をフィールドワーク とした探求活動をスタートさせました。こちらの狙いとしまして は探求ゼミ群の選択を見ていただければと思います。こちらには 地方創生ツーリズムゼミから地方創生ライフゼミまで5つのゼミ 群というものがあり、この中に5、6人の生徒たちのグループが いくつもあるという形になります。例えば、地方創生アグリゼミ というところでは、白石の伝統産業を活かしてどんなふうに地域 産業の活性化に繋げようとしているか、あるいは人口抑制に繋げ ようとしているかというテーマを設定して、市役所の関係する部 署であったり、本日出席されている皆様のところにお伺いして、 どんな課題に直面しているのか、それに対してどのように立ち向 かおうとしているのかという生の声を生徒たちに聞かせてあげて いただけないかというお願いでございます。それによって生徒た ちは取材したデータを元に自分たちで討議をして何らかの機会に 発表するという、いわゆる課題解決力というのを身につけるとい うのが狙いの1つです。もう一つは地域にいる人たちがどんな課 題に直面してそれを乗り越えようとしているのか、そして自分た ちには何ができるのか、自分自身が将来なにができるのかという 社会貢献意欲というのも育てていきたいという狙いがあります。 つきましては、今年の秋から生徒及び教員の方から関係部署へご 連絡をさせていただきたいと思いますので、ぜひともご協力いた だければと思いますのでよろしくお願いいたします。

・今のお話を聞いてすごく感銘いたしました。AIの時代が来たら、今ある仕事の半分以上が無くなるだろうと言われています。そして新しい仕事、全く見たことも聞いたことも無い仕事を新たに作る。そういう時代を生きる若者が、地元をテーマにして新しく起業をする。東北大学の経済学部では学生なんですが、会社を立ち上げて社長になっているという人が何人かいます。そういうような形で大学や高校と連携して、地元の高校生が起業してそのアイディアに資本金などを出す施策などが出たら雇用も増えるし、若い人たちのこれからの仕事も出てくるということで、非常に面白いと思う。

- ・地域の進学校が逆に子どもたちを外へ流出させてしまっているということも実際に起こっていることだと思います。優秀な子ほど外に行ってしまうということが現実に起きています。その中で白石高校が地域に目を向けるということは非常に大切で、やはり地域の優秀な子たちがその地域を支える人間に育つような方向に進めていってもらえればと思います。
- ・今白石や仙南地域の子どもたちの学力が低いと言われていますが、 大河原の小学校では思考力を育てるという教育を行っていると聞いたことがあります。3、4人のグループになって一つの物事に対して色んな視点で見ていくということをしているそうです。その結果、実力テストの成績が底上げされたという結果が出てきたというニュースを見ました。それを見て大河原にできて白石にできないはずがない、白石にできて仙南でできないはずがないということで、学力の底上げを行うことで、例えば今白石や他の仙南にいて子どもの教育が上手くできない、それなら仙台へ行ってしまおうという人口流出を防ぐことができると思う。子どもたちが学んでいくレベルが上がっていけば住んでくれると思います。人が住むことによって人口が増えていき、そうなるとそこから色んなことができるようになると思います。

→そもそも学力が下がった、いつから良くなくなったのかということですが、もともとそこまで高くなかったという認識をもっていただきたいと思う。全国学力テストの結果が公表されて、宮城県は全国平均よりも低い、その中でもはっきり公表はされていないが仙南が低いということですが、もちろん仙南全部が低いわけではない。先ほどおっしゃっていた大河原は高いレベルにありますし。白石はどちらかというとまだ公表されていませんが県内平均よりも低くなっています。近々公表になると思いますがそれに習って各学校の学力調査の結果を公表しながら、これからどうやっていったらいいのか、子どもの考える力・基本的な力をつけるために授業をどう改善するか。

もう一つ大切なのは家庭学習の充実というのがすごく大切で、そ の点がかなり足りないのではないかというふうに感じているとこ ろであります。

・秋田の子どもたちが実力試験でなぜ日本で一番なのか。秋田は塾に入っている子どもが最下位です。塾に入っていない秋田の子どもがなぜ学力試験をやると12年間一番になっているのか。一番大きいのは秋田では画一的な宿題は無いということです。脳科学は嫌だなと思って勉強したことは記憶に残さないことになって

いる。だから秋田の子は自分が得意なことだけ家庭学習ノートに勉強して先生から花丸をもらう。脳というのは得意なことを褒められると不得意なことが底上げされるという般化という作用がある。なので秋田の子たちはどんがして先生が話すだけの授業はもうやめようという話になっている。先ほど大河原の話がありましたが、みんなで話して解決を自分たちで見つけていく。これを白石の子どもたちは教育をこんな風にやっていますよというのを見せると、子育てするなら白石市そして子育て支援施設をあるしというところで融合していくと非常に面白い話になっていくと思う。

#### ○その他

#### 事務局より

・本日の検証結果につきましては、9月3日より開会される定例議会 において、行政報告させていただく予定であります。また、後日市 のホームページへも掲載をさせていただく予定であります。